

2008年度

くずみ よしひと 理事長：久住与志人



01

理事長としても最も重視された点をお教え下さい。

もう旧清水、旧駿河、旧静岡という言葉をつかわず、初年度・2年目が築いてきたものを受け継いで新しいロムとして活動していくことです。

02

スローガン、基本方針を掲げた想いやそのプロセスをお聞かせください。

JAYCEEとしての志を高く持ち、メンバー一人一人の能力を高めることにより組織力のアップに繋げ、色々なことにもプラスに作用するのではないかとの想いから掲げました。

03

JCで学んだことの中で最も大切だと思うことはなんですか？

学んだことはたくさんありますが、他のJCメンバーから時間の使い方を教わりました。職種にもよりますが、自分の場合は空いた時間に資料を見るなど、仕事しながらJCのことができるようになりました。経営者の顔・家庭人の顔・Jayceeの顔。この3つの顔を場面場面で当たり前に見える大人を目指しました。

04

1年間、理事長をやり一番嬉しかったことを教えてください。

理事会構成メンバーが最後までついてきてくれたことに尽きます。また後に理事長を務めるメンバーを育てられたこともうれしいことです。

05

今のJCと当時のJCの違いがあったら教えてください。

時代と共に運動の手法が変わっていくものだと感じています。
(当時は携帯電話、パソコンを持っていないメンバーもいてメールではなくFAXでメンバーに連絡していました。)
時代と共に便利になるが、先輩から受け継いできたJayceeのアイデンティティーは変わらないでほしいと思います。

06

過去の理事長所信等を読ませて頂き、JCは単年度制ながらも代々の理事長で伝わっているものがあるように思いました。そういったものはありましたか。

JCは単年度制、不連続の連続、変える勇気と変えない決意。JCとしてLOMとして絶対変えてはいけないものがあるのではないのでしょうか。JCにしかできないことをやることが必要だと思います。2014年度のLOMのことを一番想っているのは鎌田理事長ではないのでしょうか。

07

これからのJCが果たすべき役割は何だとお考えですか？現役メンバーへのエールも同時にお願致します。

人口が多ければ飲食店の新規オープンの混雑は長期間続き、投下資本の回収は早期に行えるなど、人口問題は衣食住全てに関わる事柄です。人口を増やすことがJCの役割とは思いませんが、40歳までの活力みなぎる青年だからこそできる、行政に頼られるような、家族・従業員がJC活動をしている父・社長を誇りに思えるような団体になって欲しいですね。

08

人口流出全国ワースト2の我がまち静岡の現状をどうお考えですか？

同上

09

静岡JCの歴史沿革の中に記すとした時、2008年度のキーワードとして『夢』『OMOIYARI』『カッコいい大人』等があると思いますが、久住シニアにとってその年をひと言で表すならどのような言葉を選びますか。

カッコいい大人。容姿云々ではなく、当たり前のことを当たり前でやる大人を目指したいとの想いがありました。

10

所信にもあります「カッコいい大人」という言葉が今でも心に残っています。一年を通じて、静岡青年会議所メンバーがどのように変わったと感じましたか？

理事や委員長が事業趣旨や挨拶の際に「カッコいい大人」という言葉をよく使用してくれていたことは、みんながしっかりと意識してくれ、方向性を示せたのだと1年が終わった時に感じました。理事長を無事に終えたという感覚や、メンバーが変わったという感覚よりも、引き続き頼むぞ、という意識が強かったように思います。

11

2008年からスタートし、現在も脈々と受け継がれているJCTを始めたきっかけとその理念を教えてください。

「14歳のハローワーク」という現役で活躍している職業人から、生の声を聞きたいというPTAからの要請により始まった事業でした。中学3年生の前では、JCメンバーの前で話すのと異なり難しかったです。しかし子供たちに教えることで、子どもだけでなくJCメンバーも相互に成長でき、道徳心や思いやりなども教えることができ、人と人との関係が希薄になっている現代社会の中、例会にして全員に出席して欲しいと思うほど素晴らしい事業でした。

12

2008年は対外的にも積極的に静岡青年会議所のスピリットを発信していく機会が多かったと記憶しています。

その中でも久住シニアが印象的だった活動は何ですか？

広報活動です。広報することによって営利活動を行わないJCを認知してもらうことができます。地域から家族から認められる組織になってほしいと思います。自分たちの活動を市民・行政にPRすることが関係諸団体の連携を図ることができ、また会員の拡大につながります。対外的に広報活動を行っていくことが当時も今も重要なことだと思うので、積極的に行って欲しいですね。

取材全体としてのまとめ・感想

合併から2年が経過して3年目に突入し、LOMの雰囲気徐々に変わりつつある時、久住理事長の「静岡・清水・駿河も関係なく」本当の意味で新生静岡JCを創り上げていこうという気概を感じました。

取材前と後での特に気付いた点

合併後3年目ということで、組織の統制に力を注いでいたのかと思いましたが、内側だけではなく、外部に積極的に青年会議所をアピールし、関係諸団体と連携を図ろうとしていたことが印象的でした。